

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第6部門第2区分  
 【発行日】平成19年3月8日(2007.3.8)

【公表番号】特表2006-520935(P2006-520935A)  
 【公表日】平成18年9月14日(2006.9.14)  
 【年通号数】公開・登録公報2006-036  
 【出願番号】特願2006-508807(P2006-508807)  
 【国際特許分類】

**G 0 3 F 7/11 (2006.01)**  
**G 0 3 F 7/32 (2006.01)**  
**G 0 3 F 7/004 (2006.01)**  
**G 0 3 F 7/032 (2006.01)**  
 G 0 3 F 7/00 (2006.01)

【F I】

G 0 3 F 7/11  
 G 0 3 F 7/32  
 G 0 3 F 7/004 5 0 5  
 G 0 3 F 7/032  
 G 0 3 F 7/00 5 0 3

【手続補正書】

【提出日】平成19年1月18日(2007.1.18)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

以下の工程：

(a) 画像形成要素を熱的に画像化し、画像化領域および非画像化領域を含んでなる画像化された画像形成要素を製造する工程；

(b) 該画像化された画像形成要素を現像液により現像し、該画像化領域を除去する工程；

を含んでなる画像形成法であって、

該画像形成要素が、順に：

画像形成層；

下層；および

支持体を含んでなり；

該下層が第一ポリマー物質を含んでなり；

該画像形成層が第二ポリマー物質を含んでなり；

該下層が該現像液により除去可能であり；

該画像形成層がインク受理性であり；

該要素が光熱変換物質を含んでなり；

該画像形成層が画像化に先立ち該現像液により除去可能ではなく；

該現像液が、該現像液の質量に対し0.5質量%から1.5質量%の有機溶媒または複数の有機溶媒を含んでなる溶媒系現像液であり；

工程(b)が、該現像液中に該画像化された画像形成要素を浸漬することにより実施されることを特徴とする方法。

## 【請求項 2】

画像化が赤外線により実施される、請求項 1 に記載の方法。

## 【請求項 3】

前記有機溶媒が、フェノールエトキシレート；フェノールプロポキシレート；ベンジルアルコール；エチレングリコールと炭素原子数 6 以下の酸とのエステル；プロピレングリコールと炭素原子数 6 以下の酸とのエステル；炭素原子数 6 以下のアルキル基を持つエチレングリコールのエーテル；炭素原子数 6 以下のアルキル基を持つジエチレングリコールのエーテル；および炭素原子数 6 以下のアルキル基を持つプロピレングリコールのエーテルからなる群から選択される、前記請求項のいずれかに記載の方法。

## 【請求項 4】

前記有機溶媒が、フェノキシエタノール、ベンジルアルコール、2 - エトキシエタノール、2 - (2 - エトキシ)エトキシエタノールおよび 2 - ブトキシエタノールからなる群から選択される、前記請求項のいずれかに記載の方法。

## 【請求項 5】

前記第一ポリマー物質が、(1) ポリビニルアセタールおよび(2) N - 置換マレイミド、メタクリルアミド、アクリル酸またはメタクリル酸を含んでなるコポリマーからなる群から選択され；

前記第二ポリマー物質がノボラック樹脂であり；

前記光熱変換物質が、下層中または下層と最上層の間の吸収剤層中にある、前記請求項のいずれかに記載の方法。

## 【請求項 6】

前記第一ポリマー物質が、2.5 から 7.5 モル%の N - フェニルマレイミド、1.0 から 5.0 モル%のメタクリルアミドおよび5 から 3.0 モル%のメタクリル酸を含んでなるコポリマーである、前記請求項のいずれかに記載の方法。